

19 教職に関する科目

| | | | |
|--|------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教職入門 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。 【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 | | | |
| 授業の概要 今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。 | | | |
| 授業計画 第1回：進路選択の対象としての教員 第2回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像 第3回： 同上 ②「授業名人」といわれた人たち 第4回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期 第5回： 同上 ②明治期と戦後の教員像 第6回： 同上 ③現代日本の学校と教員 第7回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修 第8回： 同上 ②教員の服務上・身分上の義務と身分保障 第9回：チーム学校への対応① 中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解 第10回： 同上 ②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割） 第11回：諸外国の教職員 第12回：教育方法と教員の役割①ITCと教員 第13回： 同上 ②アクティブ・ラーニングへの対応 第14回：中学生と教職員の諸関係 第15回：まとめ 定期試験 | | | |
| テキスト： 特に定めない。資料を配付する。 | | | |
| 参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社 | | | |
| 学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％） | | | |

| | | | |
|---|----------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教育原理 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解 【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。 | | | |
| 授業の概要 「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を、思想や歴史、社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。 | | | |
| 授業計画 第1回：教育学の諸概念① 日本の近代以前と近代以降の教育概念 第2回： 同上 ② 諸外国の教育概念 第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論 第4回： 同上 ②地域における教育と教育的関係 第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど） 第6回： 同上 ②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期） 第7回： 同上 ③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想 第8回： 同上 ④日本の明治期以降の教育思想 第9回： 同上 ⑤戦後日本の教育の変遷 第10回：近代公教育の原理 第11回：世界の教育改革 第12回：学力の要素と学力政策 第13回：幼児期の教育 第14回：思春期の教育 第15回：まとめ 定期試験 | | | |
| テキスト： 特に定めない。資料を配付する。 | | | |
| 参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著 ぎょうせい | | | |
| 学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％） | | | |

| | | | |
|--|------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教育心理学 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：田中 真理 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育対象である幼児児童生徒に関する心身の発達の特徴，学習，個性（パーソナリティ）に関する理論や概念を習得する。 ・各発達段階の特性に応じた教育や指導の基盤となる考え方を理解することができる。 <p>【テーマ】</p> <p>幼児児童生徒の心身の発達，学習過程，個性について理解し，それらをふまえた教育や指導方法について考える。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>教育活動とは，教育対象に対して教育や指導といった働きかけを行うことで，対象がよりよい方向に変化する過程である。学校教育では，教育対象である幼児児童生徒に関わる発達の特徴と個人特性，さらには教育や指導に不可欠な学習の過程に関して理解することが不可欠である。教育心理学は，こうした教育活動をより効果的に行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域といえる。</p> <p>授業では，発達（幼児児童生徒の身体，心理，社会性の発達や発達に関する理論），学習（学習過程とそのプロセスに関する基礎的知識），教育実践と評価（学習法・教授法，教育評価，知能やパーソナリティ）について取り上げる。さらには，これらの理解に基づいた教育や指導のあり方についても考えていく。適宜，ワークやディスカッションも交えながら体験的に理解を深めていく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：発達① 発達に関する基礎的な概念</p> <p>第2回：発達② 発達の規定要因（内的・外的要因），初期経験の重要性</p> <p>第3回：発達③ 身体発達とそれに伴う心理特性，言語発達，認知発達に関する理論</p> <p>第4回：発達④ 愛着，遊び，友人関係や仲間関係などの社会性の発達</p> <p>第5回：発達⑤ 代表的な発達理論と各発達段階，発達課題</p> <p>第6回：発達⑥ 発達と教育，各発達段階に応じた指導のあり方</p> <p>第7回：学習① 代表的な学習理論，条件づけ，観察学習，問題解決学習</p> <p>第8回：学習② 記憶プロセスやその種類，記憶の方略と忘却，記憶と教育の関係</p> | | | |

第9回：学習③ 動機づけ，欲求，学習意欲

第10回：実践・評価① 教授法，学習方法と教科との関連，ATI

第11回：実践・評価② 教育評価機能と方法，評価情報の収集方法

第12回：実践・評価③ 知能観，代表的な知能理論，知能検査と指導への活用

第13回：実践・評価④ パーソナリティ理論

第14回：実践・評価⑤ パーソナリティ検査と心理検査に関する諸概念

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

藤原雅彦・竹綱誠一郎他著『やさしい教育心理学第5版（有斐閣アルマ）』有斐閣，2019年

田瓜宏二他著『教育心理学（よくわかる教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年

服部 環・外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社，2013年

櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社，2013年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

（注）生活科学専攻のみ卒業要件単位に算入できる。

| | | | |
|---|----------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 特別支援教育概論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田中 真理 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。 ・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。 ・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。 <p>【テーマ】</p> <p>特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度</p> <p>第2回：「通級による指導」及び「自立活動」</p> <p>第3回：指導計画及び教育支援計画の作成</p> <p>第4回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解</p> <p>第5回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解</p> <p>第6回：発達障害，軽度知的障害児への支援</p> <p>第7回：貧困世帯，被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方</p> <p>第8回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築</p> <p>定期試験</p> | | | |

テキスト

全国特別支援学校校長会全国特別支援教育推進連盟編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』
ジアース教育新社, 2020年
毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

石橋裕子・林幸範編著『特別支援教育(よくわかる!教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房, 2019年
柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣, 2014年

学生に対する評価

定期試験 (100%)

| | | | |
|--|---|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教育行政学概論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。</p> <p>【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：公教育の原理及び理念</p> <p>第2回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ</p> <p>第3回：現代日本の教育制度と教育改革</p> <p>第4回：学校経営①校務分掌と各部署の役割</p> <p>第5回： 同上 ②学級経営のしくみ</p> <p>第6回：学校と地域の連携①学校と地域の関係</p> <p>第7回： 同上 ②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり</p> <p>第8回：学校安全への対応</p> | | | |
| <p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社</p> | | | |
| <p>学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教育課程論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：森田 司郎 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p><授業のテーマ>これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修する。この授業は、教員として魅力的な教育課程を編成するために教員にとって必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。</p> <p>(2) 学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。</p> <p>(3) 各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。</p> <p>(4) 開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>授業は、主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>概要：学校とは何を学ぶところか？ 社会における学校教育の意義と役割</p> <p>予習：社会の中で学校が果たしている役割について自分の考えを持ち、それを説明できるようにする。</p> <p>復習：社会における学校教育と教育課程の意義と役割について、具体的な例を挙げて説明できるようにする。</p> | | | |

第2回：日本の学校教育と教育課程

概要：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？ 教育制度・教育内容・教育方法・京員養成の比較を通して検討する。

予習：日本以外の国を一つ選び、その国の学校教育制度と日本のそれとを比較する。

復習：日本とそれ以外の二つ以上の国について、教育制度・教育内容・教育方法・教育養成の様子を比較する。

第3回：教育課程の基本原則(1)

概要：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるのか？ カリキュラムと教育課程の概念整理

予習：「カリキュラム」と「教育課程」それぞれの用語がどのような場面で使用されているか調べる。

復習：教育内容の規定要因として、国、地域、家庭、学校、メディア等が与える影響について考察する。

第4回：教育課程の基本原則(2)

概要：教育課程はどのようにして編成され、実施されるのか？ 法令、教科書・教材・学習環境

予習：特定の教材と単元を選び、複数の教科書の内容を比較して同じ点と相違点を挙げる。

復習：授業を構成する際に有益な教科書、教材、学習環境お活用・開発の仕方について考察する。

第5回：教育課程の基本原則(3)

概要：学習指導要領とは何か？ 学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み

予習：学習指導要領の大まかな内容と、学校教育現場に与える影響について説明できるようにする。

復習：学習指導要領の有無に関して、日本以外の複数の国について調べる。

第6回：教育課程の基本原則(4)

概要：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)

予習：学習指導要領の変遷の全体像について時系列で理解し、説明できるようにする。

復習：戦後～1968年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする

第7回：教育課程の基本原則(5)

概要：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)

予習：高度経済成長期の日本の学校教育の内容に関して窺える資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：1977年版～1989年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第8回：教育課程の基本原則(6)

概要：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？ 学習指導要領の変遷（1998年～2008年版の内容と社会的背景）

予習：1990～2010年における学校教育の内容に関して知ることができる資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：1998年版～2008年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第9回：教育課程の基本原則(7)

概要：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？ 新学習指導要領の内容と今後の改革の方向性

予習：現行（2017年版）の学習指導要領にもとづく学校教育の内容に関して知ることができる資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：現行（2017年版）の学習指導要領の内容について、現在の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第10回：教育課程編成の基本原則(1)

概要：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？ 各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法

予習：学習指導要領と実際の授業内容との関係について理解し、説明できるようにする。

復習：学校におけるカリキュラム・マネジメントのプロセスを、PDCAサイクルに即して理解し説明できるようにする。

第11回：教育課程編成の基本原則(2)

概要：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？ 各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法

予習：特定の教科と単元を選び、それに関して作成された複数の学習指導案の内容を比較して同じ点と相違点を挙げる。複数の学習指導案はインターネット上の教材共有サイトなどを活用して入手する。

復習：教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法、留意点について具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第12回：教育課程編成の基本原則(3)

概要：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？ 開かれた教育課程の意義と編成方法

予習：教科外活動の内容について複数の学校の事例を比較して、同じ点と相違点を把握する。

復習：開かれた教育課程を編成する際に教科外活動が果たす役割について、具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第13回：カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント

概要：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？ カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際

予習：子どもたちの学習成果を評価する方法を複数挙げ、それぞれが明らかにできる側面と限界について把握する。

復習：PDCAサイクルに即したカリキュラム評価の意義と方法について、具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第14回：今後の教育課程の在り方

概要：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？ 主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例

予習：主体的・対話的で深い学びの具体例を挙げ、その実施要件を説明できるようにする。

復習：開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの具体例を挙げ、その要点を説明できるようにする。

第15回：まとめ：授業全体の要点整理と理解の確認

予習：授業全体を振り返り、補足が必要な項目の有無について確認する。

復習：まとめを参照して授業に関する自己の理解度を確認し、資料や記録等を振り返ることで不足部分を補う。

*学習指導要領の改訂年は小学校のものを表記している。

テキスト：プリント

『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』*『高等学校学習指導要領』

参考書・参考資料等：適宜指示する

学生に対する評価

授業内テストの結果と小レポート、そして授業への貢献度を総合的に評価して判断する。

(授業内テスト 60%、小レポート 20%。授業への貢献度 20%)

小レポート：それぞれの回における授業内容の理解度を評価する。

授業内テスト：授業全体を通じた授業内容の理解度を評価する。

| | | | |
|---|--------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名： 国語科教育法 I | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2 単位 | 担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。</p> <p>模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p> | | | |
| 授業の概要 <p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p> | | | |
| 授業計画 <p>第1回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回：中学校学習指導要領について</p> <p>第3回：「知識及び技能」に関する事項について</p> <p>第4回：「思考力、判断力、表現力」に関する事項について</p> <p>第5回：教材研究の方法（1）：教材研究の観点</p> <p>第6回：教材研究の方法（2）：事例研究</p> <p>第7回：学習指導案の作成（1）：教材観、生徒観、指導観</p> <p>第8回：学習指導案の作成（2）：目標の設定、授業内容の設定、評価の観点</p> <p>第9回：模擬授業の意義</p> <p>第10回：模擬授業（1）：文学的文章</p> <p>第11回：模擬授業（2）：説明的文章</p> <p>第12回：模擬授業（3）：古典</p> <p>第13回：模擬授業の振り返り：方法と実践</p> <p>第14回：教育実習について</p> <p>第15回：まとめ</p> | | | |

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。

参考書・参考資料等：授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価： 学習指導案の作成（50%），模擬授業についてのレポート（50%）

| | | | |
|--|--------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 国語科教育法Ⅱ | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。 国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器、方法を利用した授業を計画・実践できる。 | | | |
| 授業の概要 国語教育の現状、様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク、学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し、新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。 | | | |
| 第1回：ガイダンス：国語科教育の現状 第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法 第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造 第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造 第5回：ICTを利用した授業（1）：電子黒板，タブレット端末 第6回：ICTを利用した授業（2）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用 第7回：これからの国語科教育の展望と課題 第8回：まとめ | | | |
| テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。 | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中，適宜紹介する。 | | | |
| 学生に対する評価 授業での課題（50%），期末レポート（50%） | | | |

| | | | |
|--|--------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名： 英語科教育法Ⅰ | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| 【到達目標】 | | | |
| (1) 外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導、および、学習評価の基礎を身につける。 | | | |
| (2) 教える指導観から児童生徒の心に寄り添う指導観へとシフトさせることができる。 | | | |
| (3) 各自の英語教師像や英語の授業イメージを形成することができる。 | | | |
| 【テーマ】 | | | |
| 英語の授業イメージと教師像の形成、英語教育の本質を探る | | | |
| 授業の概要 | | | |
| この授業では、様々なワークや体験活動を通して、受講者自身の「授業のイメージ」や「教師像」を育てていきます。 | | | |
| 授業の内容としては、前半は、特に学習指導要領の内容の理解に主眼を置いたワークに取り組みながら、「授業に対するイメージ」や「教師像」を形成していきます。後半は、「生徒の資質・能力を高める指導」と「授業づくり」を中心に、授業観察、授業体験、マイクロ・ティーチングを行いながら実践的に学んでいきます。 | | | |
| 授業方法としては、受講者がグループになり、「授業をつくる」というひとつの目的に向かって学んでいきます。他者と学びを共有することで、視点を広げたり、自分のあたりまえに気づいたり、協働的な学びから、英語を学ぶこと／教えることの本質を探ります。このような他の受講生と協力しながら授業作りに取り組む体験を通して、同僚性についても考えていきます。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：オリエンテーション（学びにおける主体的な実践→リフレクション（省察）→概念化の重要性）、言語教師ポートフォリオの作成（①過去の英語学習経験の省察／②この授業への期待／③教育実習に臨む前の期待と不安／④教師の資質・能力） | | | |
| 第2回：モデル授業体験、ファシリテーター／プロデューサーとしての教師の役割 | | | |
| 第3回：カリキュラム／シラバスのデザイン（学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画、小中連携）、学習と指導法への第二言語習得理論の応用 | | | |
| 第4回：生徒の資質・能力と高める指導：何が良い学び方・教え方かは、学習者によって異なる（ATIのパラダイムと英語科という教科の特質を考える） | | | |
| 第5回：授業づくり①（学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成） | | | |
| 第6回：授業づくり②（教材研究、ICT機器等の活用） | | | |

第7回： マイクロ・ティーチング（聞くこと・話すこと（やりとり・発表）、音声の指導）
第8回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第9回： マイクロ・ティーチング（読むこと・書くこと、文字指導）
第10回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第11回： マイクロ・ティーチング（領域統合型の言語活動の指導）
第12回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第13回： マイクロ・ティーチング（文法・語彙・表現の指導）
第14回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第15回： マイクロ・ティーチング（異文化理解）

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 『中学校学習指導要領解説外国語編』
『New Horizon 1』 『New Horizon 2』 『New Horizon 3』 『New Horizon Elementary 5』 『New
Horizon Elementary 6』 『New Horizon Elementary Picture Dictionary』 （東京書籍）

参考書・参考資料等

適宜紹介します。

学生に対する評価

リアクションペーパー（40%） 学習指導案作成課題（60%）を総合的に評価します。

| | | | |
|---|--------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業科目名： 英語科教育法Ⅱ | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語） | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| 【到達目標】 | | | |
| (1) 教育実習に備えて、教材研究や学習指導案の作成、授業が行える。 | | | |
| (2) 外国語教育と外国語学習の原理を自分自身の教育実践に応用できる。 | | | |
| (3) 外国語の学習タスクと教育実践を批判的に分析できる。 | | | |
| 【テーマ】 | | | |
| リフレクティブ・ティーチング (reflective teaching)、個に応じた指導力、授業研究 (lesson study)、協働学習 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| この授業では、英語教育法Ⅰでの学修を基盤に、抽象的なアイデアを具体的な教育実践に応用することに焦点を当てます。 | | | |
| 授業内容は、マイクロ・ティーチングの演習を中心に、主に小中学校における英語指導に役立つ実践的な知識と技術を身につけていきます。 | | | |
| 授業方法は、他の受講者との協働をベースにデザインされています。英語授業の 体験 → 計画 → 実践 → 省察 というプロセスを2回繰り返すことで、経験を通じた納得解を導き出していきます。最終的には、学んだ知識と経験を結びつけ、実際に、もう一度やってみることを通して、学びの深まりを体感することができるでしょう。 | | | |
| このように本授業では、協働を通して、実践・省察・概念化を繰り返し、1回目の経験を2回目に活かしていくことで多角的に知識を捉えていきます。その上で、各受講者は、「自分なりの指導の型」を見つけていきます。 | | | |
| 授業計画（内容は英語科教育法Ⅰより継続している） | | | |
| 第1回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成 | | | |
| 第2回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）1回目 | | | |
| 第3回：授業の振り返りと改善案作成 | | | |
| 第4回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）2回目 | | | |
| 第5回：授業の振り返りと改善案作成 | | | |
| 第6回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）1回目 | | | |
| 第7回：授業の振り返りと改善案作成 | | | |
| 第8回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）2回目 | | | |

第9回：授業の振り返りと改善案作成

第10回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）1回目

第11回：授業の振り返りと改善案作成

第12回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）2回目

第13回：授業の振り返りと改善案作成

第14回：日本の英語教育の展望と課題

第15回：言語教師ポートフォリオの作成とまとめ

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 『中学校学習指導要領解説外国語編』

『New Horizon 1』 『New Horizon 2』 『New Horizon 3』 『New Horizon Elementary 5』 『New Horizon Elementary 6』 『New Horizon Elementary Picture Dictionary』（東京書籍）

参考書・参考資料等

適宜紹介します。

学生に対する評価

リアクションペーパー（40%） 言語教師ポートフォリオ（60%）を総合的に評価します。

| | | | |
|---|--------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 家庭科教育法Ⅰ | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独 |
| 科 目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <p>【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し、授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき、適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして、具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。</p> <p>【テーマ】 家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p> | | | |
| 【授業の概要】・中学校家庭科教育について理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：「家庭科教育法」受講にあたって／ 家庭科教育のあゆみと現行学習指導要領について | | | |
| 第2回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力 | | | |
| 第3回：家庭科教育への理解と今日的課題 | | | |
| 第4回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴 | | | |
| 第5回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題 | | | |
| 第6回：小・中・高等学校の指導目標と内容1 | | | |
| 第7回：小・中・高等学校の指導目標と内容2 | | | |
| 第8回：家庭科教育の学習指導 | | | |
| 第9回：家庭科教育の学習指導計画 | | | |
| 第10回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容 | | | |
| 第11回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導及び目標と評価 | | | |
| 第12回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の年間指導計画と学習指導案 | | | |
| 第13回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と教材研究 | | | |
| 第14回：模擬授業実施に向けた中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）の作成 | | | |
| 第15回：まとめ | | | |
| テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」，「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」 | | | |
| 学生に対する評価：筆記試験（80％）と提出物（学習指導案20％）で評価する。 | | | |

| | | | |
|--|--------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独 |
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおし学習指導要領への理解を深める・立案した学習指導案による教材研究の実践と考察をとおし様々な教材研究法授業の実践と相互の授業観察をとおし適の習得をめざす</p> <p>・立案した学習指導案による模擬的な授業設計の考え方を理解する。</p> <p>【テーマ】「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた指導案作成及び模擬授業等の演習をとおし、家庭科教育に携わる教育実践力を確実にし、家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ、情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等、教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導案の読み合わせと確認</p> <p>第2回：学習指導案による授業展開の実際について 1（板書計画，提供資料，学習形態等）</p> <p>第3回：学習指導案による授業展開の実際について 2（教材研究の方法）</p> <p>第4回：学習指導案による授業展開の実際について 3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法） （鹿児島県総合教育センター提供の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集と活用）</p> <p>第5回：学習指導案による授業展開の実際について 4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）</p> <p>第6回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）</p> <p>第7回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）</p> <p>第8回：まとめ</p> | | | |
| <p>テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p> | | | |
| <p>学生に対する評価：筆記試験（50％）と提出物（学習指導案等50％）で評価する。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 道徳教育指導論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 道徳の理論及び指導法 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。「特別の教科 道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。</p> <p>【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か）</p> <p>第2回：各学校段階の道徳教育の目標と内容</p> <p>第3回：中学校における道徳教育の指導計画</p> <p>第4回：「特別の教科 道徳」の指導法①教科の特質の理解</p> <p>第5回： 同上 ②授業設計における留意事項</p> <p>第6回： 同上 ③指導案の作成</p> <p>第7回：模擬授業とピア評価①第1班</p> <p>第8回：模擬授業とピア評価②第2班</p> | | | |
| <p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編</p> <p>思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房</p> | | | |
| <p>学生に対する評価：模擬授業の評価（30％）・定期試験（70％）</p> | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 道徳教育の指導法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。 | | | |
| 授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。 | | | |
| 授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史①戦前の修身科 第3回： 同上 ①戦後の道徳教育 第4回：小学校と中学校の道徳教育の特質 第5回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質 第6回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第7回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第8回：まとめ | | | |
| テキスト： 特に定めない。資料を配付する。 | | | |
| 参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房 | | | |
| 学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％） | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：松崎 康弘 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 総合的な学習の時間の指導法 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 総合的な学習の時間について、その目標や意義を理解するとともに、指導計画の作成及び具体的な指導並びに学習活動の評価に関する基本的な知識・技能を身に付ける。 小・中学校の「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法・評価等について実践事例を踏まえて学び、将来の自分の実践を構想する。 | | | |
| 授業の概要 前半（第1日）はテキストの読み込みや事例の提示を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・方法・実践事例について紹介する。後半（第2日）は評価の観点も踏まえて指導計画の作成について学び、将来自分が行う実践を考える。 | | | |
| 授業計画 第1回：総合的な学習の時間の目標と意義～カリキュラム・マネジメントを踏まえ～ 第2回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題） 第3回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（2）（地域や学校の特色に応じた課題） 第4回：総合的な学習の時間の授業方法～体験活動や思考ツール・ICT活用を事例に～ 第5回：総合的な学習の時間における評価～探究的な学習の過程を踏まえ～ 第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の事例 第7回：今後の総合的な学習の時間に求められるもの～「令和の日本型学校教育」等踏まえ～ 第8回：まとめ・最終試験 | | | |
| テキスト 文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東山書房2019年） 文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東洋館出版社2018年） | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 予習：テキスト（特に第2章・第3章を中心に）を読んでおくこと。 復習：第1～4回（集中講義初日）の内容を復習し、自分ならどのような実践を行いたいかが構想すること。 | | | |
| 学生に対する評価： 最終試験（70%）、小レポート（30%） | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 特別活動指導論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 特別活動の指導法 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。</p> <p>【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し</p> <p>「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等</p> <p>第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ</p> <p>第3回： 同上 ③学級とその活動</p> <p>第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義</p> <p>第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会</p> <p>第6回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係</p> <p>第7回： 同上 ②学活の指導案</p> <p>第8回：まとめ</p> | | | |
| <p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東京書籍</p> | | | |
| <p>学生に対する評価：指導案の作成（30％）・定期試験（70％）</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 特別活動論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。 | | | |
| 授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 | | | |
| 授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動 第7回： 同上 ②給食の時間の活用 第8回：まとめ | | | |
| テキスト： 特に定めない。資料を配付する。 | | | |
| 参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」 | | | |
| 学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％） | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教育方法学概論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：元井 一郎 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ <p>教授理論の史的な展開を把握できる。現在議論されている新たな教授方法の理論的な基礎を説明できる。</p> <p>教育方法（論）に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。</p> | | | |
| 授業の概要 <p>教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教育方法の理論的な視角および特徴を確認し、理解する。</p> | | | |
| 授業計画 <p>第1回 教育方法の史的構成－1 ヨーロッパ近代と教授論の成立</p> <p>第2回 教育方法の史的構成－2 近代社会の展開と新教育運動の成立</p> <p>第3回 教育方法の史的構成－3 現代教授論の展開－教育の現代化を中心に</p> <p>第4回 教育方法の史的構成－4 日本近代と教授法の導入</p> <p>第5回 教育方法の史的構成－5 教授法の受容と変容</p> <p>第6回 教育方法の史的構成－6 現代日本の教授法とその構成</p> <p>第7回 現代教育方法論の特徴(1) 学習理論の発展と教授法の論理</p> <p>第8回 現代教育方法論の特徴(2) 学習理論とその現在</p> <p>第9回 授業研究とその展開 1（授業研究の歴史）</p> <p>第10回 授業研究とその展開 2（授業研究の理論）</p> <p>第11回 授業研究の課題</p> <p>第12回 教育方法論と教育評価</p> <p>第13回 教育方法論と学校改革</p> <p>第14回 教育方法論の論理と構成</p> <p>第15回 教育方法論の現代的課題 講義のまとめ</p> | | | |
| テキスト： 特に指定しない。 | | | |
| 参考書・参考資料等：講義中に基本文献等の紹介を行う。 <p style="text-align: center;">：集中講義であるため、手校するプリントの内容は必ず復習すること。</p> | | | |
| 学生に対する評価： <p>講義テーマ終了ごとの確認テスト（計4回）および授業終了後の提出を求めるレポート課題。</p> | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名： 学校教育におけるICTの活用 | 教員の免許状取得のための 必修科目（中学校教諭） | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | | |
| 授業のテーマ及び到達目標 | | | |
| <p>【テーマ】 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 教員として必要な情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する技能を身につける。</p> <p>(2) 情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>GIGAスクール構想が実現されつつある中、中学校において生徒1人1台端末の環境において、教員としてICT活用・指導力を身につけることが求められている。そこで、現在の推奨されているICT活用の向上に向けて、教員が持つべきとされるICTの教育利用に関する基本的な考え方と基礎技能を形成することを目標に講義や一部、演習を行う。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| <p>第1回：ガイダンス 日本の政策について確認</p> <p>第2回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（1）コンピュータとは何か、ネットワークとは何か</p> <p>第3回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（2）ICTがもたらす学校と社会の変化</p> <p>第4回：ICT教育利用の基本技能（1）ICTを利用した学習環境のデザイン</p> <p>第5回：ICT教育利用の基本技能（2）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業例の検討</p> <p>第6回：ICT教育利用の基本技能（3）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業の作成</p> <p>第7回：ICT教育利用の基本技能（4）グループによる模擬授業</p> <p>第8回：ICT教育に利用に関する総括的なグループ討議と試験</p> | | | |
| テキスト | | | |
| 「教育の情報化に関する手引」（令和元年12月・文部科学省）データと紙で配布 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 授業中に示す | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 模擬授業50%、試験50% | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 生徒指導論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：田中 真理 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 生徒指導の理論及び方法 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。 ・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。 ・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。 <p>【テーマ】</p> <p>学校教育における生徒指導の意義と原理と児童生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>生徒指導は，学習指導とならぶ，学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では，生徒指導の意義と原理，児童生徒理解，全体への指導，個別の指導といった観点から，生徒指導を進める上で求められる生徒指導に関する基礎知識や技能，児童生徒の不応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などについてディスカッションしながら，具体的・実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考える。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の定義，教育課程における位置付け</p> <p>第2回：意義と原理① 教科指導や道徳教育，総合的な学習，特別活動などの教育活動における生徒指導の意義と重要性</p> <p>第3回：意義と原理② 集団指導と個別指導に関する方法原理方法原理と生徒指導体制</p> <p>第4回：児童生徒理解① 児童生徒理解のための児童期から青年期の心理的特徴</p> <p>第5回：児童生徒理解② アセスメントの方法論と資料収集の方法</p> <p>第6回：児童生徒理解③ 教師との関係やリーダーシップ，教師期待効果</p> <p>第7回：全体への指導① 生徒指導の組織的取組と教師の役割</p> <p>第8回：全体への指導② 日常的な生徒指導のあり方</p> <p>第9回：全体への指導③ 自己存在感の育成のための活動や取り組み（集団の人間関係作り）</p> | | | |

第10回：全体への指導④ 構成的グループエンカウターの理論と実際
第11回：個別の指導① 不登校に関する基礎知識と対応
第12回：個別の指導② いじめ、暴力行為に関する基礎知識と対応
第13回：個別の指導③ 生徒指導に関する法制度と非行に関する基礎知識とその処遇
第14回：個別の指導④ インターネットや虐待等の今日的な生徒指導上の課題と
関係機関との連携
第15回：まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，（最新版）

参考書・参考資料等

安達未来・森田健宏編著『生徒指導・進路指導（よくわかる!教職エクササイズ）』ミネル
ヴァ書房，2020年

小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房，2010年

一丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 進路指導論 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 1単位 | 担当教員名：田口 康明 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分 又は事項等 | 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の堆進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 【テーマ】中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、,学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。 | | | |
| 授業の概要 進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。 | | | |
| 授業計画 第1回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解 第2回<進路指導からキャリア教育> キャリア教育の成立過程の概説 第3回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史 第4回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き 第5回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連 第6回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連 第7回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連 第8回<まとめ> | | | |
| テキスト： 特に定めない。資料を配付する。 | | | |
| 参考書・参考資料等： 古橋和夫編『改訂教職入門』萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011） 文部科学省 | | | |
| 学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％） | | | |

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|------------------------|
| 授業科目名： 教育相談 | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：田中 真理 担当形態：単独 |
| 科 目 | 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める 科目区分又は事項等 | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を实践するうえで必要となる知識を習得する。 ・生徒の問題に応じた援助のあり方を実践的に理解する。 <p>【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。</p> | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <p>学校現場での教育相談とは，児童生徒それぞれの発達に即して好ましい人間関係を育て，生活によく適応させ，自己理解を深めさせ，人格の成長への援助を図る教育実践である。教育相談を進めるには，児童生徒の発達状況や個別的な課題を理解した上で，個々に応じた支援が求められる。本講義では，教育相談の意義と発達臨床心理学的な理論の理解，カウンセリングマインドを基礎とする実践的な教育相談の進め方や取り組みについて学ぶ。さらに事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：オリエンテーション，教育相談と生徒指導との関連性 | | | |
| 第2回：意義と理論① 教育相談の意義と教育相談体制 | | | |
| 第3回：意義と理論② 教育相談とカウンセリングとの関係 | | | |
| 第4回：方法① 児童生徒の「問題」理解とその背景要因 | | | |
| 第5回：方法② 児童生徒からのサインの理解とアセスメントの視点と方法論 | | | |
| 第6回：方法③ 教師に求められるカウンセリングマインドの必要性 | | | |
| 第7回：方法④ カウンセリングの理論と技法 | | | |
| 第8回：方法⑤ ロールプレイによる実習 | | | |
| 第9回：展開① 児童生徒や保護者に対する教育相談の進め方 | | | |
| 第10回：展開② 開発的・予防的教育相談の方法 | | | |
| 第11回：展開③ 不登校への理解と対応 | | | |
| 第12回：展開④ いじめへの理解と対応 | | | |
| 第13回：展開⑤ 非行や虐待等への理解と対応 | | | |
| 第14回：展開⑤ 教育相談での課題に応じた関係機関との連携 | | | |

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

森田健宏・田瓜宏二他編著『教育相談（よくわかる!教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年

河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化社 2012年

一丸藤太郎・菅野信夫『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋レポート課題（20%）＋リアクションペーパー（10%）

| | | | |
|----------------------|---|-------|--------|
| 授業科目 | 教育実習（事前・事後指導を含む。） | 担当者 | 田口 康明 |
| | | 授業外対応 | 田口へメール |
| | 〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 5 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習・講義 | | |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p> | | |
| (1) テキスト (2) 参考文献 | <p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。 | | |

| | | | |
|--------------------|---|------------|------------|
| 授業科目 | 栄養教育実習 | 担当者 | 中西 智美 |
| | [履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1 | 授業外対応 | 適宜対応 (要予約) |
| | | [必修/選択] 必修 | [授業形態] 実習 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を得得する。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』(平成28年2月) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』(平成31年3月)</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>*各施設により異なる</p> <p>1 指導教諭等からの説明 ・ 学校経営, 校務分掌の理解, 服務等</p> <p>2 児童及び生徒への個別的相談, 指導の実習 ・ 指導, 相談の場の参観, 補助等</p> <p>3 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・ 学級活動及び給食の時間における指導の参観, 補助 ・ 教科等における教科担任等と連携した指導の参観, 補助 ・ 給食放送指導, 配膳指導, 後片付け指導の参観, 補助 ・ 児童生徒会, 委員会活動, クラブ活動における指導の参観, 補助 ・ 指導計画案, 指導案の立案作成, 教材研究等</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習 ・ 校内における連携・調整(学級担任, 研究授業の企画立案, 校内研修等)の参観, 補助</p> <p>4 ・ 家庭・地域との連携・調整の参観, 補助等</p> <p>5 食に関する指導と学校給食の管理を一体的に担う方法</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 実習先評価(60%) + 実習ノート・実習への取組態度(40%)により評価する。 | | |
| 実務経験について | 学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。 | | |

| | | | |
|--------------------|---|------------|------------|
| 授業科目 | 栄養教育実習の事前事後の指導 | 担当者 | 中西 智美 |
| | [履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 | 授業外対応 | 適宜対応 (要予約) |
| | | [必修/選択] 必修 | [授業形態] 講義 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を得得するために、栄養教育実習の教育的効果を高め実践的指導力の充実を図ることを目的とし、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』(平成28年2月) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』(平成31年3月)</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション(意義, 目的, 心構えなど)</p> <p>第2回 実習の評価の方法, 実習後の提出物(実習ノート, 学習指導案など), 実習中の短大との連絡方法等</p> <p>第3回 指導計画案, 学習指導案の立案作成, 教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施(1)</p> <p>第5回 模擬授業の実施(2)</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表(1) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表(2) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価, 実習の反省, 問題点の整理, 今後の課題</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 発表・提出物(80%) + 取組態度(20%)により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。 | | |
| 実務経験について | 学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。 | | |

※ 7.5回

| | | | |
|----------------------|---|-------|------------------------------|
| 授業科目 | 教職実践演習(中) | 担当者 | 田口康明, 未定, 竹本寛秋, 石井英里子, 坂上ちえ子 |
| | | 授業外対応 | 田口へメール |
| | [履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習 | | |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p> | | |
| (1) テキスト (2) 参考文献 | (1)視聴覚教材(模擬授業の映像など)やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 授業計画 第1回:[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。 第2回:[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回:[ロールプレイ(1)] 第4回:[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回:[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回:[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第7回:[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回:[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回:[学校見学](11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回:[グループ討論(3)]学校見学についての省察 第11回:[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第12回:[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第13回:[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第14回:[人権学習] 「人権教育」に関する講演会(県人権同和対策課派遣講師) 第15回:[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。 | | |

| | | | |
|----------------------|--|-------|----------------|
| 授業科目 | 教職実践演習（栄養教諭） | 担当者 | 田口 康明・未定・中西 智美 |
| | | 授業外対応 | 田口へメール |
| | [履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習 | | |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を捕い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p> | | |
| (1) テキスト (2) 参考文献 | (1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2) 適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和对策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。 | | |